

高松市立高松第一小、京都市立仁和小が 900 万点

「できる時にできる人ができることを」／地元町内会が大きな力に



「無理なく活動していくことが大切」と話す PTA 本部役員の川田敦さん、松下明弘さん、入江由美子さんと平尾高王教頭（右から）＝高松市松島町 2 丁目の高松第一小



「地域のみなさんに深く感謝します」と語る鳥屋原学校長と PTA の平野雅幸会長、前ベルマーク委員長の辰巳純子さん、同じく前副委員長の佐藤伊代さん（右から）＝京都市上京区御前通一条下ルの仁和小

高松市立高松第一小学校（児童数 640 人）と、京都市立仁和（にんな）小学校（同 362 人）が、今年 3 月、ベルマーク累計 900 万点を超えました。いずれも地元の府県内では 4 番目の達成です。

◇

高松市の中心部にある高松第一小は、2010 年に近隣 3 校が統合して発足しました。四国では初の施設一体型小中一貫校です。ベルマーク運動には統合前の 1963 年から参加しています。

ベルマークは月 1 回の「リサイクル週間」に、牛乳パックやインクカートリッジなどと一緒に学校で回収。PTA の一斉メールで周知し、5～6 年生児童の「エコグリーン委員会」が回収の実務を担当しています。

仕分けと集計を担うのは PTA 保健体

育部メンバーで約 20 人。授業参観日などに作業時間を設け、一般の会員から助っ人役の「スポットボランティア」も募ります。年間で 5 万点前後を集め、ドッジボール、長机など、子どもたちに身近な備品類をそろえてきました。

PTA のスローガンは「できる時にできる人ができることを」。ベルマークの作業も参加しやすい環境作りに努めており、「学年を超えた交流ができてよかった」という感想が寄せられるなど好評だそうです。

昨年度まで PTA 本部役員（広報担当）を務めた入江由美子さんは「親子で一緒に取り組めて、目に見える結果を出せるのがベルマーク運動。それを多くの人に知ってほしい」。同じく本部役員（保健体育部担当）だった川田敦さんは、「中

高一貫の特色を生かして、中学でもベルマークに取り組みればよいと考えています」と話しています。

◇

京都市の仁和小は 1965 年からベルマークの収集を続け、2006 年に 800 万点を達成。その後 11 年半で 100 万点を積み上げました。クラスごとに回収箱を置き、子どもたちがいつでもマークを持ってこられるようにしています。インクとトナーの使用済みカートリッジ回収にも力を入れています。

最も大きな力になっているのは校区内に 78 ある町内会。毎年 9 月に PTA のベルマーク委員 22 人が手分けして各町内会長を訪ね、収集用の封筒を手渡します。封筒は回覧板と一緒に各家庭を回り、2～3 週間後に委員らが回収。年間に集

まるマークの 8 割ほどは、こうして地域から寄せられる分だそうです。

仁和小は明治の初め、京の町衆たちが資金を出し合って開設した「番組小学校」の一つで、来年創立 150 周年を迎えます。900 万点達成について、鳥屋原学校長は「学校が愛されてきたことを実感します。PTA のみなさんが 50 年以上コツコツと積み重ねて来た努力が大きな成果を生み出した」と、歴代ベルマーク委員らの頑張りをたたえます。

PTA の平野雅幸会長は「学校に強い愛着と関心を持ち続けてくれている地域のみなさんのおかげ。地域の協力で、子どもたちに役立つものを買ってあげられるのはとてもありがたい。900 万点の達成を広くお知らせして、次の 1 千万点につなげたい」と話しました。

ベルマーク仕分け、「面白かった！」

岡崎市のボランティア「火曜会」が企画



3 月に開かれた愛知県岡崎市の第 33 回岡崎ふれあい福祉まつりに、ベルマークの仕分け体験コーナーが登場、多くの親子連れや子供たちで賑わいました。

市内で活動するベルマークの仕分けボランティアグループ「火曜会」が出席しました。会場の東部地域交流センターむらさきかんでは、仕分

けへの参加を促すチラシも配布されました。それを見て参加したという小学 2 年生の塚崎美湖（みこ）ちゃんは、「ベルマークは知っていたけど、数えたのは初めて。色んなマークがあってびっくり。面白かった」。

火曜会は 1980 年からマークの仕分けを続け、財団に全国から届く寄付のマークを整理するボランティア

の草分け的存在です。昨年度は 53 万点あまりを集計し、累計点数は 3,415 万点にもなります。

火曜会の代表でベルマーク大使も務める三田靖子さんは「メンバーの平均年齢は 70 代後半ですが、より良い方法を模索しつつ、色々な方と協力してこれからも続けていけたら」と思いを込めました。

ASA が東大阪市のマーク収集に協力

東大阪市のベルマーク収集に、朝日新聞の販売所（ASA）が協力することになりました。大阪府の東大阪、八尾、柏原 3 市のエリアにある約 20 の ASA でつくる「大阪府中部朝日会河内ブロック会」が全販売所に回収箱を置き、新聞の折り込みチラシなどで約 4 万の購読者にマークの収集を呼びかけるほか、集金時など

に回収も手がけ、集まったマークを東大阪市に寄贈します。

今年 1 月から折り込みチラシで PR し、4 月以降、本格的に回収をスタートさせました。ブロック長を務める「株式会社あさひやまもと」の山本雅一社長が 3 月に市役所を訪れて「みなさんのお役に立てるよう、しっかり PR したい」と話す、野

田義和市長も「市の職員も頑張って収集してくれている。自分もマークがついている商品をチェックして集めています」とこたえました。

同市は自治体として全国で初めて 2015 年からベルマーク収集に乗り出し、累計 10 万点以上を集めて地元校や東日本大震災の被災校に寄贈しています。



握手する野田義和・東大阪市長（右）と大阪府中部朝日会河内ブロック会の山本雅一・ブロック長